

JPSCS ニュースレター 2014年8月6日

医療クライシスマネージャーの創設

国際医療リスクマネジメント学会理事長
日本医療安全学会理事長
酒井 亮二

日本国内にリスクマネジメントという言葉を実格的に導入するために、リスクマネジメント学会を日本国内に新設して13年が過ぎました。リスクマネジメントおよびリスクガバナンスという考え方は、事故の未然予防という理想の世界を目指すものです。過去1世代の間を経て、日本の臨床現場では膨大な数の医療リスクマネージャーが配置され、さまざまな任務を遂行しておられます。

さて、事故を100%防ぐことは不可能です。人知が予期せぬリスクがシステム内部に潜み、それによって事故が現実が発生した際への適切な組織対応、つまり、クライシスマネジメントおよびクライシスガバナンスが必要です。そこで、医療機関にその専門家としてクライシスマネージャーを新設できれば、事故への円滑かつ適切な対応が可能となり、患者・家族および医療従事者の安心・満足度が高まり、市民社会に無用な不安をおおることなく、医療への信頼度が強化されるのではないのでしょうか。

クライシスマネジメントが高度に発達している英米に比較して、日本を含むアジアでのそれはかなり低レベルであり、安全文化の大きな欠陥と考える次第です。